

4

エクステンションセンターによる講演

合格するために何をすべきか 専修大学公務員試験講座はこうなっている

専修大学エクステンションセンター
事務部公務員試験講座担当講師

朱 武英



他大学の学内講座との違い

公務員試験講座を担当しております朱と申します。専修大学の専任になって6年目です。以前は大手受験指導予備校で約20年にわたり公務員を目指す学生を指導してきました。予備校時代には、多くの大学で学内講座を担当したことがあります。だからこそわかりますが、専修大学以外はほぼ予備校に丸投げです。

ところが専修大学は違います。職員から「講座内容を改善した方がいいですか」「今の学生の気質を考え、どう指導したらいいですか」ということを毎回のように入れられるわけです。専修大学から声をかけていただき専任講師となる決心をした理由は、ここなら学生に即した形で指導できると思ったからです。

専修大学では毎年しっかりと結果を検証し、どうすればより良い結果を得られるか、議論を戦わせて講義内容

を決めているのです。

公務員試験の概要

国家公務員には国家総合職と国家一般職があります。国家総合職というのはいわゆる霞が関のキャリアと言われる幹部職員です。国家一般職というのはいわゆる8、9割を占めている事務担当です。国家一般職の場合、さいたま新都心に関東の出先機関がありますので、そういうところで働くケースもあります。

そのほか国税専門官、労働基準監督官、裁判所の書記官など、国家専門職と呼ばれる特定の専門分野の仕事をする公務員もいます。

専修大学の学生は近年、税務署で働く国税専門官になる者も多いです。それから市役所職員あるいは県庁職員など、地方公務員を希望する学生も多いです。

公務員の採用試験は4年次の4月以降で、4月下旬に国家総合職、5月初旬に東京都特別区や東京都庁の試験が始まります。「民間企業との併願は可能ですか」という質問をいただくことも多いですが、民間企業の就職活動では3、4月になれば1日5、6社の会社説明会を回ることもあり、さらにはエントリーシートも書かなければなりません。その状況で公務員試験の勉強をするのは難しいです。

もし民間企業と併願するならば、どうしても行きたいと思う企業5、6社に絞って行く。もしくは公務員試験でも遅いところでは9月以降に東京都内の市役所などがありますので、民間企業の内定を取った後で、そういったところを併願することをお勧めします。

次に公務員試験の内容をご説明します。1次試験は、教養試験（数的処理、文章理解、社会科学、人文科学、自然科学）、専門試験（憲法・民法・行政法、経済原論や政治学、社会学、行政学）、そして論文試験が行われます。論文試験では、時事問題などが問われます。そして2次試験として面接による人物試験があります。

また警察官・消防官の1次試験は教養試験のみで専門試験はありません。その代わり、面接はかなり厳しく見られます。体力検査もあります。

ご父母・保護者の中には、公務員試験は筆記ができれば大丈夫とお思いの方もいらっしゃると思いますが、現

在では集団面接や集団討論が大きな比重を占め、筆記ができて採用に至らないケースもあります。

公務員試験の合格倍率

資料1の国家一般職採用試験（関東甲信越地区行政職のみ）における倍率を見てみましょう。平成29年度は申込者数12,200人に対し、1次合格者は2,608人で大体4分の1程度です。そして最終合格者は1,724人ですから、さらに3分の2程度です。1次に通れば、なんとかなるとも言えますが、国家一般職の場合は合格後に官庁訪問をして、そこで内定を取らなければなりません。実際に内定を取れるのは最終合格者の半分くらいです。試験を10番以内の上位合格した学生が、官庁訪問したらどこからも内定をもらえなかったというケースもありますので、人物試験が重要になります。

資料2の東京都特別区の採用試験・選考実施状況を見てみましょう。これも最終合格者は毎年2,000人近くいます。それに対し採用予定数は1,000人程度です。1,000人しか採らないのに2,000人を合格させてどうする？と思うのですが、受験者は併願していますので、ほかのところに行ってしまうことを考えています。東京都特別区は、最終合格者に対し各区が個別に面接を行って採用しています。

警察官についてはオリンピック・パラリンピックに向けて、ここ何年間か大量採用が続いています。警察官は5倍前後の倍率です。一方、消防官の倍率は10倍を超えるところもありますので、消防官は事前の面接の準備がかなり重要になってきます。

公務員試験講座について

公務員試験に向けて1年次からできることをご説明します。神田キャンパスでは1年次に憲民刑入門講座を設けております。公務員試験で出題される憲法、民法、刑法の基礎を学習できます。

神田キャンパスの法学部学生においては、2年次で基礎力充実講座、3年次で実力完成講座を設けて実力を積み上げていきます。一方、生田キャンパスの学生は、1年次に公務員試験入門講座、2年次に実戦力養成講座、3年次に合格力養成講座を設け、3年間かけて学びます。

資料1 国家一般職採用試験・選考実施状況
(関東甲信越地区行政職のみ)

	申込者数	1次合格者数	最終合格者数	倍率
H30	11,616 (4,435)	2,493 (812)	1,696 (618)	6.8
H29	12,200 (4,422)	2,608 (828)	1,724 (637)	7.0
H28	12,548 (4,387)	2,969 (923)	1,985 (710)	6.3
H27	12,233 (4,384)	2,723 (897)	1,805 (695)	6.7

(カッコ内は女性受験者の数で内数)

資料2 東京都特別区採用試験・選考実施状況

	採用数	応募者数→実受験者数	1次合格者数	2次合格者数	最終合格者数	倍率
H30	1,130	14,998 → 12,718 (5,218) (4,481)	4,505 (1,625)	3,812 (1,391)	2,371 (1,065)	5.4
H29	980	15,118 → 12,683 (5,111) (4,395)	4,219 (1,425)	3,599 (1,244)	2,176 (941)	5.8
H28	940	15,574 → 11,795 (5,175) (3,927)	3,433 (1,152)	2,909 (1,005)	1,781 (771)	6.6
H27	930	12,534 → 9,712 (4,288) (3,322)	3,263 (1,066)	2,972 (961)	1,739 (733)	5.6

(カッコ内は女性受験者の数で内数)

こうした講座で筆記試験は十分に対応できるようになります。

予備校の場合はこれだけのボリュームを1年間でやるため、大学の授業にしわ寄せが来ます。一方、学内講座なら移動時間がなく、学業やサークル、アルバイトと無理なく両立できます。

そして、学生には1年のうちからサークル、アルバイト、ボランティアといった活動を通して、いろんな経験を積んでほしいと思います。例えば、被災地のボランティアに参加することでも貴重なことを学べます。自分たちがいかに恵まれているか、肌で知り、成長する機会にもなります。親御さんも背中を押してやってください。

専修大学には私を含め3人の専任講師がいます。学生の理解度を見ながら、カスタムメイドの講義を行っています。年2、3回は個別面談を行い、学習の進捗を見て

この先の勉強の進め方を確認しています。

先週、東京都特別区の一次試験の発表がありました。そして先日、2次試験対策として、東京都特別区で働いている職員7名が来校し、後輩にアドバイスをしてくれました。かつての受講生たちです。こうしたことができるのも専修大学の強みだと思います。

最後に受講生の主な進路ですが、昨年度は国家総合職で2人の現役合格者が出ています。東京都庁や関東の県庁で数名、静岡県庁、新潟県庁なども多くいます。東京都特別区、警察官、消防官も多数の合格者を出しています。これは学生が頑張った結果だと思います。そして、頑張る学生の背中を支え、時に押してあげる、それが専修大学の公務員試験講座です。ご清聴ありがとうございました。